

第 3 回	平和についてカント(1724-1804)とともに考える (①平和をめぐる哲学的思索の動向；テキスト「序論」)
第 4 回	平和についてカントとともに考える (②歴史進歩と平和；テキスト「第 1 章」)
第 5 回	平和についてカントとともに考える (③デモクラシー平和論とは何か？；テキスト「第 2 章」)
第 6 回	平和についてカントとともに考える (④カントにおける法と自由と利己心；テキスト「第 3 章」)
第 7 回	平和についてカントとともに考える (⑤商業平和論とは何か？；テキスト「第 4 章」)
第 8 回	平和についてカントとともに考える (⑥カントにおける市民的法秩序の構想；テキスト「第 5 章」)
第 9 回	平和についてカントとともに考える (⑦現代における平和構築のためにできることは何か？；「結論と展望」)
第 10 回	芸術についてアドルノ(1903-1969)とともに考える (①芸術と社会)
第 11 回	芸術についてアドルノとともに考える (②音楽の聴取タイプ)
第 12 回	芸術についてアドルノとともに考える (③作品分析と作品の意味)
第 13 回	科学的思考についてポパー(1902-1994)とともに考える (①反証可能性とは何か？)
第 14 回	科学的思考についてポパーとともに考える (②可謬性、反証可能性、パラダイム)
第 15 回	科学的思考についてポパーとともに考える (②科学的判断とフェイク)
テキスト	桐原隆弘 著、『〈法〉中心の自由論——商業平和論／デモクラシー平和論へのアプローチ』、晃洋書房、2025 年
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に適宜紹介します。またクラスルームで参考資料を共有します。
課題に対するフィードバックの方法	次の回の冒頭、レポートについてコメントを行います。
学生へのメッセージ・コメント	まずは各自の「人生」に真摯に向き合いましょう。そして生きる意味や価値尺度について自分なりに考えを巡らせましょう。 哲学や倫理について書かれた書物やインターネットの記事などを読み、理解を深めましょう。